

聴覚障害者の歴史学習会

尼崎市聴力障害者福祉協会

令和4年度尼崎市自発的活動支援事業 実施報告

尼崎市聴力障害者 福祉協会について

- ▶ 設 立：昭和28年
- ▶ 会員数：80名(令和4年度)
- ▶ 目 的：本会は聴力障害者が融和協力し、相互扶助による共通の福祉増進を図ることを目的とする(規約第2条)

事業の目的・内容等 について

- 目的

本会は創立70周年を迎える。近年手話言語条例が成立するなど、聴覚障害者福祉へ追い風が吹いている中、さらなる歩を進めるために聴覚障害者の歴史から権利をつかみとることの必要性を学び、自ら社会にはたらきかけられるようにしていく。

- 事業内容

映画会および講演会

映画「卒業～スタートライン～」

講演「映画に込めた思い」

講師 谷 進一氏(聾宝映画監督)

- 実施日等

令和5年2月26日(日) 午後1時より5時

尼崎市立身体障害者福祉会館にて

参加者数 60名

事業の効果 について

- 事業の効果

映画で取り上げた内容は昭和40年に京都府立ろう学校で実際に起きた授業拒否事件をテーマにしており、生徒たちがわからない授業をよしとせず仲間が一致団結し、教員たちと話し合っ改善に結びつけた様子を見ていくことで、現代社会でもわからないときはわかるようにしてくれと求めるのは当たり前なことなんだということを改めて感じる事ができた。

今後の協会の活動にあたって聴覚障害者にわかりやすく伝えるためにはどうしたらいいのかを話し合える機会にはなった。

今後の課題等 について

- 今後の課題

周囲の配慮が足りずにわからない状況を諦めている聴覚障害者はまだまだいることから、気軽に聞きに行ける拠点作りが必要。

わかりやすく伝える方法はどのようなものか、日本語だけでなく手話をどのように取り入れ、情報を発信するのかまとめて実行していく必要がある。その中で創意工夫を重ねてわかりやすい情報提供の形を作り上げる。

協会独自でやっていくのではなく、行政とも協力し合いながら情報発信のあり方を考えていく。